

第10話 大風篇

真夏の夜の夢

1

お元気ですか。風の島は夏真っ盛りです！ 二つの台風が去ってから、モーレツな暑さが続いています。平らな岩の上で卵を割ったら目玉焼きができそうなくらい暑いんですよ。

前に紹介した海池と並んで、風の島の避暑スポットとして人気なのが、城山のふもとにあるサンシル洞窟です。洞窟の中は気温が20度しかなく、島のみんなは簡易ベッドを持ちこんでのんびり過ごします。サンシル洞窟は別名「夢見の洞窟」。見たい夢について考えながら寝ると、その通りの夢が見られることで有名なんです。

そうそう。この間、ウサコさんに誘われて、キロロとヤマガメオジィと一緒に洞窟でキャンプをしたんです。パーベキューをしたりトランプ遊びをしったりと楽しかったんですが、その夜、夢をめぐる大事件に巻き込まれてしまったんです……。

2

深夜、チルーは物音を聞いて目を覚ましました。なんだろう、と思って起き上がろうとすると、金縛りにあったように体が動きません。足もとで揺れるろうそくの炎の向こうでは、洞窟の壁に三つのトンガリ帽子の影が見えました。「フーコ姉さん、あのカエル娘の夢なんて食べごろじゃない？」

「まだ黄色いわよ！ 熟したら赤くなるって何度言ったらわかるの？ ミーコ、そっちはどう？」「イーコ姉さんったらせっかちね。こっちのウサギ娘の夢は段々とオレンジ色になってきたわ」どうやら、声の主は3人の魔女たちで、みんなの頭の上に浮かぶ「夢の実」を食べようとしているようです。夢を食べられると寿命が縮むという話を思い出したチルーは、大声で叫ぼうとしました。しかし、喉に石が詰まったように声が出せません。

どうしたらいいの！？ うんうんと考えているうちに、チルーはあることを思いつきました。みんなの夢の中にもぐりこむことができれば、一人ずつ起こすことができるかもしれない！ チルーは目を閉じて、まずはウサコさんのことを頭いっぱい思い浮かべました。

3

そのころ、ウサコさんは花畑にいる夢を見ていました。花畑にはたくさんさんのミツバチたちが飛び交って、巣に花の蜜を運んでハチミツ作りをしています。ウサコさんがハチミツをペロツとなめる未来に向かって、

夢の実がプクーっとふくらんでいきました。一方のチルーは、真っ暗な世界の先に光の穴を見つけました。穴の方に進んで行くと、ひょっこりと、ウサコさんの近くの花から顔を出すことができました。

「ウサコさん、邪魔してごめん！ でも、魔女たちがあなたの夢の実を食べようとしているの！ 起きて！」ウサコさんはびよんと跳ねるように驚きましたが、チルーの必死な説明を聞いて目を覚ましました。すると、パチン！ ウサコさんの頭の上の夢の実が弾けました。よし、うまくいった！ 続いて、チルーはキロロのことを頭いっぱいに思い浮かべました。



くらびー絵本

風の島からの便り

絵 Sava 文 野原 誠喜

そのころ、キロロは歌声コンテストの夢を見ていました。大勢の観客を前に、緊張でドキドキしながらステージの上に立っています。キロロが観客から歓声と拍手を浴びる未来に向かって、夢の実がプクーっとふくらんでいきました。

チルーがひょっこり顔を出したのは、キロロの目の前にあったマイクでした。

「キロロ、歌う前にごめんね！ でも、これは夢で、魔女たちがあなたの夢の実を食べようとしているの。起きて！」

キロロはグゲ〜と驚きましたが、チルーの必死な説明を聞いて目を覚ましました。すると、パチン！ キロロの頭の上の夢の実も弾けました。この調子よ！ 最後に、チルーはヤマガメオジィのことを頭いっぱいに思い浮かべました。

4

楽しみにしていた夢の実を二つも失って、魔女たちは慌てました。「どういこと？ フーコ姉さん、こんなことってあるかしら？」

「おかしいわね。イーコ姉さん、夢を見ていないあの小娘が怪しいんじゃない？」「きつとそうよ！ ミーコ、あの子にもっと強い魔法をかけてやりなさい！」

魔女が指を鳴らすと、チルーの体はビリビリとしびれてヤマガメオジィのことが考えられなくなりました。

そのころ、ヤマガメオジィはゆーっくり、ゆーっくりと城山を登っている夢を見ていました。頂上にたどりつく未来に向かって、夢の実もゆーっくり、ゆーっくりと熟している最中で、まだまだ青いまです。

「イーコ姉さん、こんなに遅いんじゃないや朝になるわ！」

「それに、この亀じいさんの夢の実、とてもマズそうよ！ イーコ姉さんはどう思う？」

「そうね。……悔しいけど、今日は退散するとしましょう。フーコ、ミーコ、行くわよ！」

3人の魔女たちは舌打ちし、ブツクサと文句を言いながらヒュルルンと風のように去って行きました。

5

朝、ヤマガメオジィはスッキリと目を覚ましました。グーっと首を伸ばして、フワーっと大きなあくびをしたあと、周りを見ると、近くには寝不足のチルーたちが横になっていました。「おい、もう朝じゃよ。いつまで寝ているんじゃない？」

ウサコさんとキロロは起き上がり、昨日の晩、チルーがどれだけ大変な思いをして魔女たちから夢を守ったのか話しました。しかし、ヤマガメオジィはホッホッホと笑いました。「みんなで変な夢でも見たんじゃないか？ ワシはもう帰るぞー」「もう！ でも、魔女たちがあきらめたのはヤマガメオジィのおかげもあるわよね」

チルーはそう言って、ウサコさんとキロロと顔を合わせて笑いしました。

風の言葉

ゆーっくりと遅く実るものもある



風の名

大風（ウーカジ）

沖縄の言葉で台風のことを「大風」と言うよ。そのほかにも、「風吹」と言う地域もあるんだ。沖縄の古い集落では、道より低い場所に家を造り、福木などの防風林で覆って台風から家を守る工夫が見られるよ。